

底である民約説による個人主義的思想は理論的にも排撃されるものである。一步踏みはずせば重大な事になり、法律外の事は何をしてもよいと言ふ思想がある。天皇と國民との精神生活に向つてよく認識せしめる事が内閣の役目であり、これに反省せざる官吏には斷乎たる處置を取らねばならぬ。

創生會（九州日報主筆） 清水芳太郎

美濃部憲法論の如きは内閣に於て速かに明確なる態度を取る可である。この問題に對し目已の野心を以て反對する者は絶對排撃する陛下は國民の生活が豊かであれと御思召されるが故に、東北農村の慘狀を甲上げて政黨、政府に御叱りをして救き度いと思つてゐる。日本は大戦後マルクスを味つた事もありデモクラシーを研究した事もあるが日本の方針を考へる時何れでもいけない事が解り、常に大同團結して國難を突破

するものが仕來りである。日本にキリスト教が入つて來たその舊約聖書を見ると非常に立派なものであるが、日本民族が持つ宗教を古事記、日本書紀に見る時建國の大精神が數段優つてゐる。日本古代の思想とキリスト教とを比べると大變異なつて居る。造られたと言ふ事と生れたと言ふ事は非常に異なる。子は親の分身であり、數々廻れば天御中玉大神に違する勳植物凡て神の生なま給ふたのである之皆神の御末である。日本の神様は全部人間がなるのである。價値の高いものが神になられる、萬神の内價値の高い神を生み給ふた神を神として常に御祀りして吾々から立派な神を引出す様に在るのである。彌進の河原と言ふ事は數々進化向上せよとの意味である。外國の如く自然淘汰ではなくよいものを生む努力による進化である。總てが神になる事が即ち建國の大精神である。